

未来の学び舎を創る

～八百津町小中学校の在り方「課題」「経緯」「今後」～

1. 子どもたちの未来と教育環境の課題

未来を生きる子どもたちには、いろいろな人とコミュニケーションを取り、知恵を結びつけあうことで、新しい価値を生み出す力が必要だと言われています。

- ・未来を生きる力を育む教育環境を整えたい
- ・仲間同士で磨き合える環境をつくりたい

しかし、次のような、現実的な課題があります。

35人 (令和5年1月現在)

令和10年度の小学1年生の児童数は
町内全体で35名

八百津小6名、和知小16名、
錦津小11名、久田見小2名

施設の老朽化

町内全ての校舎を整備しなおすため
には莫大な予算が必要

校舎の他運動場、体育館、プール
ICT等屋内設備等の整備

小規模化の影響

小規模校は、一人一人に丁寧にかかわれる
良さがある一方、次のような課題が指摘され
ています。

- ・クラス替えができず人間関係が固定化
 - ・集団行事の実施に制約
 - ・部活動の種類が限定
 - ・授業で多様な考えを引き出しにくい
 - ・多様な物の見方や考え方に触れることが難しい
 - ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
 - ・社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- (文部科学省 令和4年学校魅力化フォーラムより)

全国の動向

(文部科学省 令和4年学校魅力化フォーラムより)

平成3年～令和3年までの統合

喫緊3年間

小学校 5,191校

令和元年度 111件

令和2年度 168件

中学校 1,257校

令和3年度 152件

全国的に統合は増加しており、都市部でも統合や小中一貫校への移行が見られます。

2. 八百津町小中学校の今後の在り方検討委員会 町内 1 小学校、1 中学校へ

令和 3 年 3 月議会で上記委員会設置を可決 令和 3 年度中に 5 回の委員会開催

各自治会代表、各保小中保護者代表、町校長会代表、学識経験者、総勢 25 名により、令和 3 年 6 月から令和 4 年 3 月の間に 5 回にわたって審議しました。最終的に教育委員会に対して次のような答申を提出いただきました。

在り方検討委員会から教育委員会への答申（抜粋）

学校の統合について

「将来的に 1 小学校 1 中学校への統合」を目指して検討をしていただきたい。

ただし、その過程においては統合を段階的に行うなど現在や今後の各学校の個別の状況を鑑みた対応をしていただきたい。

（在り方検討委員会の詳細は HP をご覧ください）

3. 潮見小学校と八百津小学校の統合

令和 5 年 4 月 1 日より両校を統合

（令和 4 年 10 月号 令和 5 年 4 月号の広報でもお伝えしております）

潮見小は、統合が無ければ、令和 5 年度は、児童数 11 名、全校 2 クラス（5 年生 6 年生で 1 学級、1 年生と 4 年生で 1 学級）という課題を抱えていました。教育環境から緊急性があると判断し、統合を地域に提案しました。（3 回の地域説明会、個別相談会）その後、町議会での議決をへて、今年度からの統合となりました。

統合により、校区が潮見小校区と八百津小校区と合わせたものに広がりました。これは子どもたちの学びが広がるチャンスでもあります。八百津小はこれを生かすべく取組んでいます。具体的には潮見小学校で行ってきたふるさと学習を八百津小でどう受け継ぐか、地域の方のお知恵をいただきながら新しいカリキュラムを 1 年かけて作成していきます。（説明会等の経緯は HP をご覧ください）

4. これから・・・ 子どもたちの未来のために みんなの思いと知恵を集めて

今後について

人口動静、町財政、そして何より子どもたちの未来をふまえ、どんな教育環境にしていくのか、今年度は、専門家会議を実施し、学識経験者の助言をいただきながら、その方向性を探っております。今後、町民の皆さんへの意見聴取も行います。子どもたちの未来を中心にすえた議論をよろしくお願いいたします。